

「一から分かる豊臣兄弟と戦国武将の世界」

講師：江宮隆之（作家）

兄・藤吉郎（豊臣秀吉）の「弟」でありながら参謀・補佐役の生き方に徹した羽柴小一郎（秀長）の生涯を描くNHKテレビの大河ドラマ「豊臣兄弟」は、軽みはあるものの、これまでの大河ドラマなどで描かれた秀吉像や戦国武将像とは、やや異なった展開で楽しませてくれています。その意味では目新しさが感じられますが、実は、意外に戦国時代と戦国武将の事実に近い描き方をしているとの指摘もあります。特に秀長については、これまであまり知られておらず、そのキャラクターも新鮮に映ります。

「もしも秀長が生きていたならば豊臣の天下は安泰だったはず」とも言われ、徳川の天下さえなかったかも知れないといわれるほどの人物が小一郎・秀長です。そうした豊臣兄弟と、彼らに関わりながらこれまであまり知られことのなかった戦国武将たちについて、さらには戦国時代の兄弟の「愛憎」にも分かりやすく触れます。

豊臣兄弟の生き方や戦国武将のあり方は、混迷を深める現代社会を生きる私たちに、ながしかの「生きるヒント」を与えてくれるはずです。人との関係が希薄になっている今、戦国武将の生き方からは人と人との結びつきの大切さも教えられる気がします。そこに、文学や歴史を知る・学ぶ意味と意義があるように思います。（江宮隆之）

【日時】 令和8年6月13日（土）13:30～

【場所】 玉穂生涯学習館 2階 視聴覚ホール

【定員】 180名 申し込みは不要です

講師紹介：江宮隆之（えみや・たかゆき）氏

1948年山梨県生まれ。作家。88年『経清記』（新人物往来社）で第13回歴史文学賞受賞。95年、『白磁の人』（河出書房新社）で第8回中村星湖賞受賞。また同年『白磁の人』が第41回課題図書となる。歴史小説を中心に精力的な執筆活動を続け、『天下の雨敬、明治を拓く』『慈雨の人』（共に河出書房新社）『朝鮮を愛し、朝鮮に愛された日本人』『將軍慶喜を叱った男堀直虎』（共に祥伝社）『明治維新を創った男』（PHP 研究所）『真田幸村』（学研パブリッシング）『明智光秀「誠」という生き方』近著に『7人の主君を渡り歩いた男 藤堂高虎という生き方』（共に KADOKAWA）などがある。

